

全体を通して

平成 27 年度は新たな事業として指定相談支援事業所〈にっと〉の設立を行った。また地域ぬくもりサポート事業の全市展開やワンマイルネット事業の活動、イベント等を通して、地域とのつながりを強化・発展させてきた。

1. 中・長期的事業計画の作成

社会福祉法人あむが設立して今年で 7 年となる。設立時より毎年事業を拡大してきており、事業予算規模は設立当初に比べ、ほぼ 2 倍となった。5 年後の法人、事業のあり方やどの程度の規模の組織となることが適正なのか等を検討し、スタッフの意見を事業所ごとに提出し、中・長期的な事業計画として 5 か年計画の作成を行った。

2. 給与体系、キャリアパスの作成

平成 26 年度より組織した給料 colede 委員会により、今までの給与体系の良いところや悪いところなどを考え、一定の方向性をチーフ会議に提案し、新たな給与体系の作成を行った。また給与体系にリンクした、スタッフのキャリア形成を明確にしたキャリアパスの作成に着手した。

3. 〈あむ〉の歴史の振り返りから今後をみすえる

平成 26 年度、新たな事業や活動の提案を出し合うアイデア・コンペにおいて、法人設立当初に描いた「思い」、「ミッション」が全スタッフで同じように共有できているのか？という疑問が出てきた。

そのため平成 27 年度は検証委員会を組織し、改めて過去に行われたアイデア・コンペを振り返り、達成できたこと、できていないことを検証する作業に取り組んだ。また同時に「あむ」の歴史の振り返りを行い、年表や、理念等をまとめた「アムペディア」の作成を行った。

4. ワークライフバランスの実現

子育てをしながらの短時間正職員、グループホームの宿直スタッフなど、変則的な勤務形態が増え、スタッフの働き方が多様化してきている。

子育て中のスタッフによる月 1 回の情報共有、子育て相談の場として、「ママランチミーティング」を行った。話し合いの中から生まれたアイデアをチーフ会議に提案し、子育てしながら働きやすい職場環境、勤務形態を継続的に検討した。

5. 人材育成～〈あむ〉の土台であるスタッフ個々人の実践力と総合力の向上を

働き方の多様化に加え、新規職員の経験値等も多様化してきている。また、様々な役割

の世代交代を進める必要性も増してきている。

スタッフ個々人の多面的で深い利用者理解、グループやチームにおけるマネジメント力、それらを含めた総合的な実践力が身につけられるよう、従来から行ってきた事例検討を含む部署ごとや法人全体の研修の実施、外部研修等への派遣を継続的に行った。また平成27年度は平成26年度に行ったおためし実践発表会を拡大し、1日通して、全事業所の実践を発表する実践発表会を行った。

生活介護事業 びーと

1.事業の目的

利用者の思いに寄り添うよう努めた。

社会との繋がりや関わる機会を設ける事に努めた。

2.「わたし」の計画

「できる事」「やりたい事」「やってみたい気持ち」に着目し、本人が「やってみよう」と思える計画になるよう心掛けた。「計画が進む」事が「生活が変わる」事だと理解し、一緒に計画を作成・見直す利用者が増えた。また利用者が主体的に取り組めるようニーズに合わせて関わりや活動内容を変化した。

生活全体を意識した「わたし」の計画になるよう、事業所内だけでなく他の社会資源との繋がりも大切に進めた。

3.活動内容

「わたし」の計画に基づき、利用者本人が選択できるものであるよう心掛けた。

また、「楽しい」「嬉しい」「できた」「やってみたい」等の気持ちを大切にし、前向きな取り組みとなるよう努めた。

〈ぴーす〉では月1回作業メンバーによる「ぴーす会議」を実施。会議では売上目標の設定や制作品検討の他、昨年度同様「みせる」「はなす」「つくる」チームに役割を分け、それぞれで話し合いを進め活動に取り入れた。また、ギャラリー展、サマーセール等のイベントを実施した事により地域の方に足を運んで頂くきっかけとなった。

全体として事業所内の活動だけに完結せず、地域の中で活動していく場面を数多く作るよう意識した。従来の奥芝商店での調理補助、ポスティング活動の他にも今年度は地域の公園清掃や地域美化活動等を行った。様々な人間関係の中で貴重な体験を行う事ができた。

余暇活動に関しては「びゅーてぃー講座」「お楽しみ外出」等、活動種類のバリエーションを増やし幅広い内容の中から選択してもらえよう努めた。積み重ねて活動する事により参加メンバーの楽しみの幅も大きくなっていると実感している。

4.ボランティア

〈ぴーす〉での創作活動、〈びーと〉での余暇活動ともに多くのボランティア参加があった。メンバー交流、作品の質・量の向上等、多大な影響を受けていることから、次年度も継続していきたい。

5.事故防止

利用者が安全に安心して活動できる様に配慮し、事故なく1年の活動を行う事ができた。次年度も引き続き、利用者理解を深める事を徹底するとともにリスクマネジメントを意識し危険の予測と回避に十分に配慮した活動を展開していきたい。

居宅介護等事業 ばでい

事業目標 … “使いやすい” “気軽に安心” “緊急時に対応できる” 「ばでい」

平成27年度はスタッフの増員により、利用希望が集中する曜日・時間帯において、調整がつかないサービスの断りが減少した。また定期での新規利用の相談については難しいケースが多く、次年度以降の課題ではあるが、時間調整が可能な利用相談については、いくつかで新規相談からの利用を受け入れることができた。

1.環境・体制づくり

情報共有に関しては、事業所全体での再確認と各スタッフの意識の向上を図ってきた。具体的に日誌やホワイトボードの活用、各スタッフが確認できているかをチェックする様式を作り、共有漏れや連絡ミスは減っている。利用者の状況や関わりについてはサービス後の振返りに留めずに、定例ミーティングでも題にすることで、事業所としての支援を共有してきた。次年度への課題としては、女性スタッフだけで関わる利用者（女性利用者、医療的ケアで関わる利用者もいる）への支援体制の充実を図りたい。

2.業務分担

ミーティングに関しては、確認や共有・協議に時間をかけられるように、議題の事前確認や連絡・報告は回覧板などで都度行った。主な事務的な業務である、サービス調整と請求業務をチーム担当制として、また新たに加わったスタッフからの視点も参考にして、共有や引継ぎの方法について効率化を図り、

日々の業務については朝ミーティングで、その日の業務と担当者を確認して日誌に記録することで連携による効率化ができた。

3.研修、スキルアップに関すること

サービス提供に必要な、喀痰吸引等研修や強度行動障がい支援者養成研修、福祉有償運送講習などを優先して受講し、各スタッフが参加した研修については書面報告を行っている。次年度は報告の方法について検討していく。また他法人との交流会、研修会に参加した。

4.個別支援計画・モニタリング

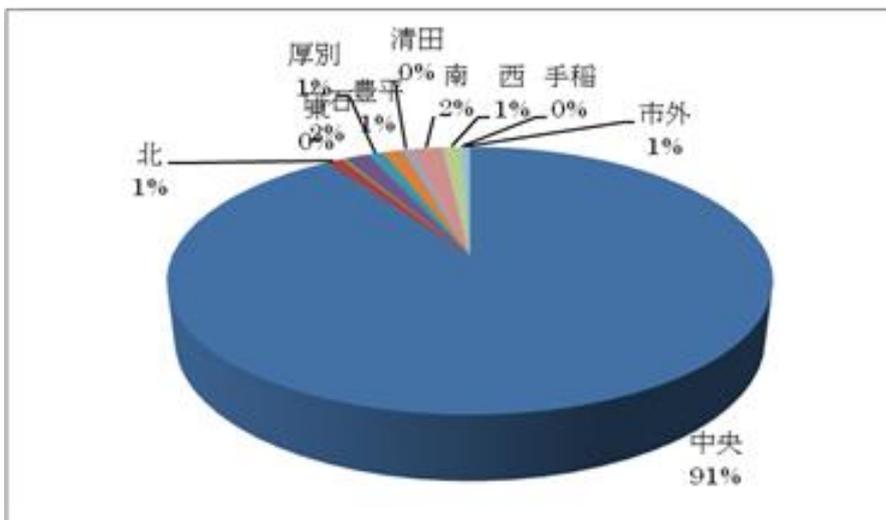
個別支援計画の書面の内容を見直し、連動する形でモニタリングの書式も、利用者さんやご家族へ伝わりやすい様な工夫を考えて、変更した。実施方法についても日時を調整して、必要に応じて時間をかけて行った。

委託・指定相談支援事業 相談室ぽぽ

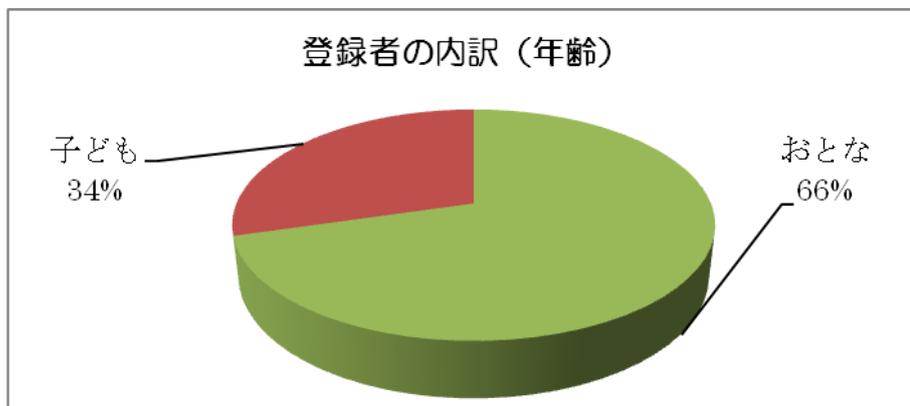
1.年間利用実績

- 平成28年3月末登録者数 394名
- 平成27年度新規登録 116名（平成26年度：124名）

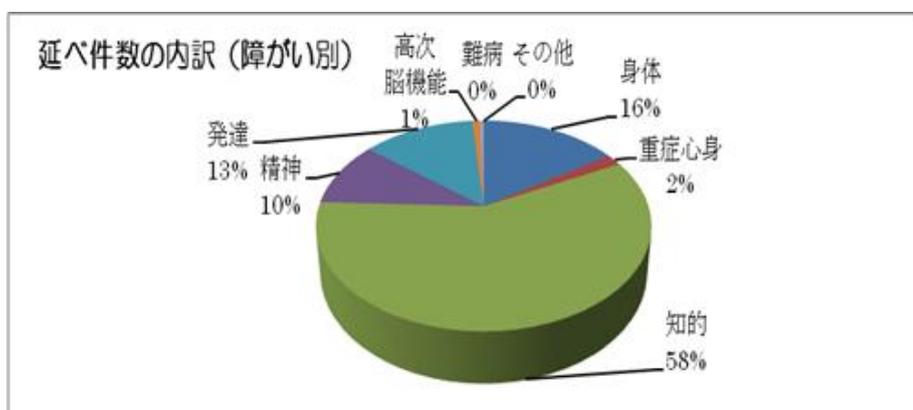
◆居住地◆



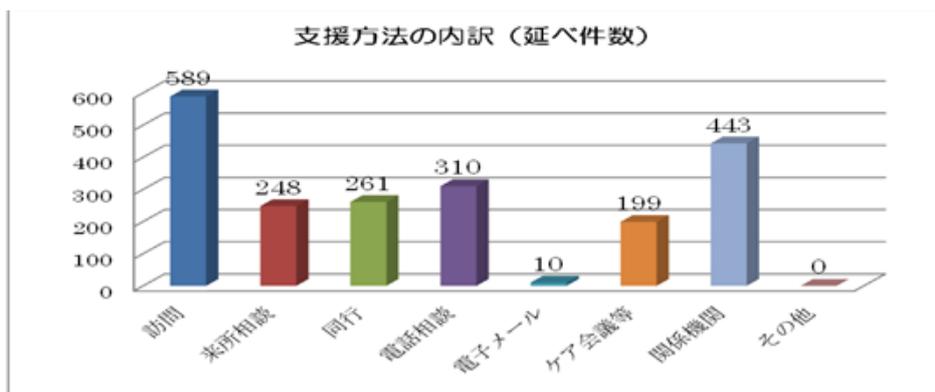
◆年齢◆



◆障がい◆



○年間延べ支援件数 2054件



2.委託相談支援事業とサービス等利用計画の作成

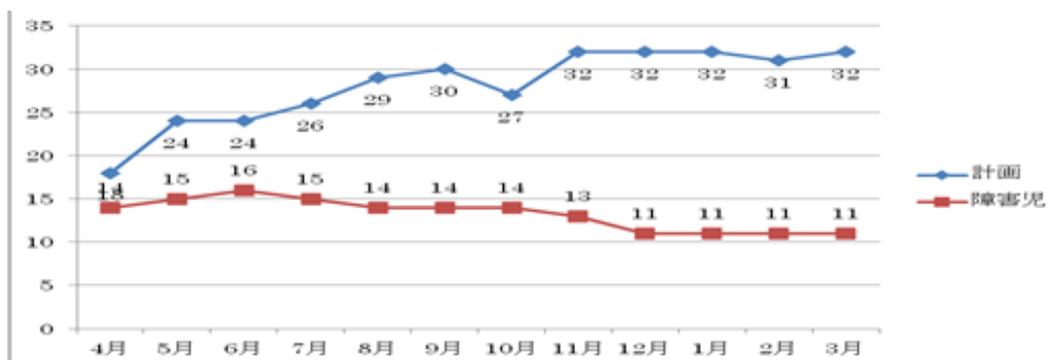
今年度は専任スタッフ4名体制で委託相談と計画相談等を実施してきた。

近年の支援の状況は、委託相談業務の他に計画相談業務の増加や相談内容の複雑化・多様化により実務量が増大しており、個別の相談支援は圧迫されてきていると感じている。計画相談に関しても相談支援専門員の絶対的な数の不足が大きな課題である。

しかし、これまで大切にしてきた「本人主体の相談支援」や「身近な地域で気軽に相談できる場」の実現、自立支援協議会等の「地域での取り組み」に関する役割を今以上に発揮したいと考えている。

次年度の5か年計画計画の中で具体的に取り組んでいきたい。

○計画相談利用者数



3.コミュニケーション研究会

「話し合いや自己表現の場を通してコミュニケーションの基本を学ぶ事」を目的に、発達障がいのある成人の方等を対象にしたコミュニケーション研究会の実施計画を作成した。次年度に具体的に取り組んでいく予定である。

4.ピアサポーター

知的障がいの方3名、視覚障害の方1名とピアサポーターの雇用契約を結び、札幌市全体のピアサポーター交流会等にスタッフと一緒に参加した。また、委託相談支援事業に位置付く「ピアサポーター事業」自体を見直す意見交換会にスタッフが参加してきた。

次年度は、〈ぼぼ〉だけでなく他の相談室のニーズも確認し、一人暮らしや就労等に関する個別の相談にもあたっていけるようにしていきたい。

5.地域資源との関係、地域での役割発揮

身近な地域にある下記のような機関とつながりを作り関係を深めてきた。このようなか、相談員個々が様々なことを学ぶと同時に相談支援事業等に寄与することができた。

(1) 中央区合同勉強会

相談支援に関わる情報共有、考え方の整理やすり合わせ計画相談の検証等を目的。区役所保健福祉課、委託相談事業所、指定相談支援事業所等で構成。

(2) 札幌市自立支援協議会

- ・中央区地域部会（事務局）
- ・相談支援部会（定例会参加、企画推進等プロジェクトチームへの参加）

(3) 外部講師の派遣等

- ・札幌市個別支援計画研修
- ・北海道相談支援従事者研修 など

(4) その他

- ・相談員同士の各種のネットワーク（事務局等） など

6.相談支援スキルの向上

日常業務の中でのスキルの向上等をめざし、次のような取り組みを行ってきた。

(1) 随時のミーティング（毎朝、及び随時必要に応じて）

個別相談の経過報告、事例の検討、スタッフの行動予定

(2) 定例ミーティング（原則毎週水曜日、午前中）

個別相談の経過報告、事例の検討

(3) 月末ミーティング（原則毎月最終金曜日、午前中）

会議、研修報告、スタッフ個々人の相談活動の振り返り

(4) スペシャル・ミーティング（年に2回）

個別相談の継続、待機、終了の判断やそれらの目途をつける

(5) その他

スタッフ個々人の「まとめる力」を養うために持ち回りにより会議録を作成する等

児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業 に・こ・ば

児童発達支援事業 に・こ・ば2

1. 目的・運営・保護者支援の充実

職員が不足し補充に時間がかかっているが、スタッフ協力のもと、創意工夫しながら大きな事故もなく運営できた。スタッフからはもう少し余裕ある時間配分や人員配置があれば、もっと個々人に対する活動内容の充実や個別課題の充実ができたのではないかと意見もあり、今後改善を図りたい。

保護者からの活動内容について、期待は高く、スタッフの質の向上に努めなければなら

ないが、人員が不足している中で、多くの研修参加が難しかったが、経験者が日案から関わり、活動にも参加していることから、現場でのやり取りや、フィードバック等積み重ねられている。

保護者からの困り感については、連絡ノートで保護者から発信されることに、即座に対応してきた（電話での相談対応・活動の様子を伝える・発達・障がい特性について等）ただ、すぐに答えが出るものは少ない為、継続して相談を受けながら、子どもの育ちに寄り添い、母親の困り感にも寄り添うことが、少しずつできてきている。

個別懇談は、年2回の個別支援計画評価時に、子どもの成長と一緒に確認しながら話せたので、年2回に限らず、随時行えるように工夫していきたい。（個別懇談の希望は90%以上）

2. 札幌市障がい児等療育支援事業

相談室からの紹介や利用児の保護者からの紹介で、子どもとのかかわりづらさや不登校についての相談などをしながら、本人支援や保護者支援を行ってきた。

平成27年度実績 8件

3. 職員育成・研修

スキルアップに繋がるための経験・研修受講に努めてきたものの、人員配慮・時間配慮が難しく十分な研修参加が出来なかった。しかし研修の内容を、発表する場を設けたり、アドバイスを求められたりして活動の中に取り入れるためにはどうするかなどスタッフ間で話し合うなど、少しずつ研修参加から現場への活用へと繋がってきている。

他事業所との連携を深め、お互いの人事交流の場を設けられ、双方の刺激となり視野が広がりつつある、今後も継続していきたい。

4. 連携支援のありかた

幼稚園や保育園・学校・セラピーとの連携については、保護者を通してやりとりをしながら、個別支援計画に基づいた支援のあり方などを話す機会に恵まれ、継続して行くことが出来ている。ネットワークを大切にしながら、連携を継続していきたい。また、セラピーでの内容を持ち帰り、個別のセラピー内容を集団の活動で利用できるよう、創意工夫しながら取り組んでいる。スタッフの意識が変わってきた。

5. 全体を通して

全体を通して、今年度は保護者の協力のもと、事故・けがもなく療育や活動ができた。児童発達支援事業に・こ・ば（幼児AM）は医療的ケアが必要な子、運動発達の遅い子等、発達に大きな開きのある子どもたちの療育だったため、難しさはあったがスタッフ協力しながら活動ができた。

ただ、スタッフ間の連携のあり方には課題が残り、それぞれの発信力の弱さが浮き彫りになり、連絡ミスや活動内容のイメージ共有など難しかった。スタッフそれぞれの自覚もあることから、話し合う時間の作り方等、伝達の工夫やノート・ボードの使い方などの工夫をしながら、取り組んでいきたい。また、ブログに目を通されている保護者が多く、ブログに写真を載せることにより、療育内容の様子が分かりやすかったことから保護者からの期待度も大きい。

療育内容や個別の取り組みなど課題は多いが、スタッフそれぞれ向上心を持って取り組んでいるので、次年度につなげていきたい。

にこばAM（児童発達支援事業 5 名）・小学生（放課後等デイサービス事業 5 名）

にこば2（児童発達支援事業 10 名）月別のべ人数(年間のべ日数÷月のべ人数＝平均)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
AM	19	16	17	28	42	39	48	44	43	53	47	49	2.3
小学生	74	71	75	96	89	70	69	62	75	84	64	75	3.5
にこば2	160	133	171	167	169	165	168	164	158	145	150	146	8.5

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

(「H2600」とあるのは、昨年度年間実績の数字)

1.障がい者相談支援事業所の支援

(1) 個別相談支援業務

登録者数は 11 名 (H26:13)、支援回数は延べ 63 回 (H26:102)。未登録者への支援回数は延べ 161 回 (H26:56) で、前年度と比較すると、登録者への支援と未登録者への支援の割合が逆転した。

(2) 札幌市障がい者相談支援事業の改善、相談支援事業の後方支援

委託相談支援事業所に対する支援件数は 91 件で、このうち約半数の 47 件は個別ケースに関するもの。計画相談や地域相談についての支援依頼は、指定のみの相談支援事業所と比べて少ない傾向にある。同じく委託を受けていない指定相談支援事業所に対する支援件数は 77 件で、個別ケースに関するものは 18 件であった。

「委託相談支援事業所新任職員研修」、「スキルアップ」研修（面接技術、障がい福祉の歴史と札幌市の相談支援事業の歴史をテーマに）に実施した。その他、「札幌弁護士会との共催研修」を実施した。

2.計画相談支援の推進

計画相談と委託相談のバランスを含めた計画相談のルール化に向けて、札幌市自立支援協議会相談支援部会等の活動を通じて活動してきた。また、計画相談に関わる実務的研修を9回開催し、90名が受講した。

3.地域相談支援の推進

H27年度に「札幌市精神障がい者地域生活移行支援事業ピアサポーター活用業務」の委託を受けて市内精神科病院への挨拶回りをピアサポーターとともに開始し、市内精神科38病院中37病院への訪問を実施した。これらと並行し、「精神科病院マップ」の作成や、全道域での『精神障がい者地域移行「医療と福祉の連携研修会」』開催（H27年11月18日及びH28年1月21・22日）の準備から開催に関わってきた。

4.障がい当事者による相談支援活動の支援

ピアサポーター配置事業所意見交換会を3回開催し、各ピアサポーター配置業務の活動状況共有や、事業の今後のあり方の検討のための意見交換を実施した。また、ピアサポーター交流会が毎月開催され、事務局に参加してきた。

5.札幌市自立支援協議会

全体会・運営会議及び相談支援部会の事務局業務を通して協議会全体会の活性化をはかってきた。また、に対しても事務局業務を通して活性化をはかってきた。地域部会に対しては、67回参加（地域部会連絡会2回を含む）し、状況を見ながら、協議会の他の組織の情報提供などを行ってきた。自立支援協議会事務局業務は、延べ152回（H26:160）。

6.地域支援体制の構築

市内関係機関と数多く連携をはかってきた。弁護士を含む司法関係者には個別ケースに関する助言等を行ってきた。また、石狩圏域及び北海道の連携に関して、夢民が主催する「相談支援ネットワーク会議」等へ参加した他、北海道自立支援協議会地域づくりコーディネーター部会にオブザーバーとして定期的に参加した。

相談支援従事者研修基礎研修後期や、同研修の現任研修に、ファシリテーターとして協力。市内の委託相談に向けても、相談支援部会定例会やメールで協力を依頼し、9事業所10名のファシリテーター協力を繋がった。

7.情報提供、情報発信

ワン・オール プレス（機関誌）は 3 回発行し、関係機関へメールなどで発信した。ワン・オールかべ新聞（ホームページ）は、「札幌市の相談支援事業所」アイコンを追加した他、随時必要な情報を掲載・更新した。ホームページの年間のアクセス件数は、「ワン・オールかべ新聞」が 28,586 件（1 日平均約 78）、「ワン・オールブログ」が 4681 件（1 日平均約 13）。

8.運営体制

年度途中から、社会福祉法人あむでスタッフ 1 名増員、ピアサポーター 4 名増員した。報告事項の共有や、協議のためミーティングを 33 回開催した。運営委員会を 11 月に開催市、年度中間の事業報告を行った。

共同生活援助事業・併設型短期入所事業 こまち

1.全体を通して

(1)〈こまち〉では一般の賃貸マンション（メゾン伏見とフローネ南 10 条）を借りて事業を行っている。3LDK 3 部屋と 2LDK 1 部屋を借り、その居室を共同生活援助事業（グループホーム）入居者・短期入所事業（ショートステイ）利用者の個室として利用している。

平成 27 年度はグループホームの男性入居者 1 名が 11 月に退去している。また 11 月より入居希望の方がショートステイで利用され、平成 28 年 4 月に入居している。これにより再び全室入居となっている。

(2) 前年度からやっと入居者それぞれの思い・意思などが表出されるようになってきた。それゆえに今度は入居者間でのトラブルも出てきている。多くは思い違いや表出の弱さが原因となっており、スタッフが間に入り支援している。これまで以上に入居者の個性、特性を知る機会となっている。

2.利用状況

以下はそれぞれの 27 年度利用状況。グループホームでは 11 月に 1 名退去しておりその分前年度より利用日数が減っている。ショートステイでは 11 月移行は前年度と同じくらいの利用であるが、全体的には昨年度よりも減少している。

グループホーム

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	211	173	204	216	218	180	193	182	202	195	177	184

ショートステイ

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	18	24	20	26	14	23	32	25	38	30	39	54

3.事業規模の拡大

事業規模を拡大する為、新しい物件の取得を目指してきた。しかしながら条件に合った物件を見つけることが出来なかった。主な要因は消防法改正により、グループホームに関しての基準が変わった事である。具体的には新規にグループホームの部屋を借りる際は自動火災報知設備をマンションの全室に設置しなければならないという基準である。

この為、既に自動火災報知設備を設置している物件や設置に同意してくれる物件などを探してきた。いくつか条件の合いそうな物件が見つかったが、消防に問い合わせると基準を満たしていないことがわかり取得を断念している。

4.スタッフ体制

今年度は常勤スタッフ 4 名と日給の当直スタッフで事業を行ってきた。しっかりと情報共有を行う為、常勤スタッフは日々の引き継ぎの他に週に 1 度会議を行っている。情報共有や事例検討を行い利用者理解に努めている。

当直スタッフを含めた全体会議は月 1 回程度を目指していたが、なかなか開催出来なかった。その為、口頭での引き継ぎや記録物での情報共有を行ってきた。

単独型短期入所事業 ふらっぴ

1. 全体を通して

〈ふらっぴ〉では今年度も利用者が自宅で過すのと変わらないような支援を目指し、単独型短期入所事業を行ってきた。利用者のご自宅ではいつ食事をしているのか、余暇は何をして過ごしているのかなどを聞き、これを参考にスケジュールを立てている。

〈こまち〉でも短期入所事業を行っているが、グループホームと併設されている為、集団で過ごすことになる。その為、より個別の支援が求められる利用者には〈ふらっぴ〉を紹介し利用してもらった。また、〈こまち〉が満床の場合や〈こまち〉では対応できない身体障がいをもつ利用者なども〈ふらっぴ〉を利用してもらった。

スタッフは他の事業と兼務している為、〈あむ〉の各事業と勤務調整し、事業を行ってきている。そしてなるべくその利用者をよく知るスタッフが担当できるよう調整してきた。

しかしながらケアができるスタッフが少ない利用者もあり、利用希望があったがお受けできずお断りする場合もあった。

2. 利用状況

今年度の〈ふらっぴ〉の年間利用者数は 20 人で年間利用日数は 39 日と少なかった。月平均では利用者数は 1.6 人で、利用日数は 3.2 日だった。

その大半のケースは利用者のご家族の休養の為や、ご家庭での用事の為の利用だった。利用希望自体が少なかったが、調整がつかずお断りしているケースもあった。

指定相談支援事業 相談室にっと

平成 27 年 9 月 1 日、本事業所の開設当初、相談は非常に少なかったが、平成 28 年 3 月に高等支援学校を卒業予定の生徒を中心として 11 月以降徐々に利用者が増加した。

1. 計画作成の実績

	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
障がい者	1	1	1	3	2	8
障がい児	0	1	1	1	1	4
合計	1	2	2	4	3	12

利用者（本人、家族）が直接相談室に連絡してきたケースは 2 件。他は学校、委託相談室、病院等関係機関からの紹介である。

実績は知名度の低さを物語ることは否めないが、「相談支援事業所が足りない」という札幌市の状況を踏まえて開設した当初の目的を、充分果たせていない現状は何によるのか、もっと追究する必要がある。

2. ミーティングの実施

SC の一室で、週 1 回 1 時間～1 時間半程度のミーティングを実施。

担当する利用者の情報と制度活用および相談の進捗状況の共有。個別の支援策検討を中心とした学びあいの場として機能している。

3. 相談の事例

- ・ 制度利用手続きの理解が不十分（児童 2 件）

① 計画作成中に受給者証が届き、支援が中断したケース

すでに区役所窓口でサービス利用の申請済み（セルフプラン作成）であることに利用者が気付いておらず、当相談室に計画作成を依頼していた。

② 自分で申請し、支援が中断したケース

当相談室に計画作成を依頼したにもかかわらず、家族が役所に問い合わせ「窓口で申請できます」との説明を受け、セルフプランで手続きを済ませた。

- ・訪問してみないとわからない生活実態

「通所先を探してほしい」という依頼を受け、自宅を訪問すると、部屋の中がごみで埋もれており、実は「片づけられない人」で課題は山積となっており、相談支援事業所が関わらなければ、課題が明らかにならなかったケース。

- ・「計画相談は通過儀礼か？」と感じる事例

高等支援学校卒業にあたり、「うちの学校から〇名お願いします」という進路指導教諭からの申し込みがあり、卒後の通所先の計画作成の依頼を受けたが、進路がすでに決まった上で、依頼が来ているケース。

事業所全体で、各事例を通じていろいろな実態に直面し、あたふたと支援する半年間であったが、継続した支援を通じて「元気に仕事していますよ」「笑顔が増えました」（事業所）「自分のことを隠さなくていいんだ」（本人）といった声に触れ、相談のやりがいを感じ、励まされながら相談支援を展開しているところである。

地域ぬくもりサポート事業

地域ぬくもりサポート事業は、障がいのある人や発達に心配のある子の日常生活を地域全体でサポートしていくため、地域住民（地域サポーター）による有償のボランティア活動を推進する札幌市の事業である。

当法人が札幌市より運営委託を受け、地域ぬくもりサポートセンターとして、手助けを求める方と、誰かの役に立ちたいという想いを持った地域サポーターをつなぐ役割を担い、活動を展開している。

「地域に暮らす人同士、お互い対等な人間関係のもとで築かれる助け合いの輪を広げていきたい」というこの事業の趣旨は当法人のミッションである「出会いからつながりを編み、結び目を作る」と理念が合致しており、ミッションを体現する事業と言える。

平成 27 年度は 10 月より、札幌市内を 3 つのエリアに分け、3 サポートセンター体制で全市展開が始まった。約 3 年間のモデル事業の経験を経て、当法人は基幹センターとしての役割を担い、エリアは中央区、南区、豊平区、清田区を担当している。

全市展開を機に、積極的に PR 活動を行ったため、利用者、地域サポーターとも登録者を増やすことができた。

また支援件数も徐々に増えてきており、月平均約 40 件（あむ分）となっている。障がいのある人や子の事業所、学校からの送迎、一人暮らしの人の話し相手、下肢に障害のある人の家の除雪、視覚障がいのある人の外出同行、精神障がいのある人の部屋の片づけなど支援内容は多岐にわたっている。

地域サポーター一年齢層・男女比

	男	女	合計
10代	1	4	5
20代	17	27	44
30代	17	22	39
40代	17	27	44
50代	6	19	25
60代	17	20	37
70代	11	12	23
80代	0	1	1
合計	86	132	218
平均年齢	45.6歳	45.5歳	45.5歳

利用者年齢層・男女比

	男	女	合計
10歳未満	28	9	37
10代	11	5	16
20代	4	1	5
30代	4	10	14
40代	4	13	17
50代	4	5	9
60代	6	12	18
70代	5	6	11
80代	1	4	5
90代	1	3	4
合計	68	68	136
平均年齢	27.9歳	47.4歳	37.7歳

地域サポーター職業別・男女比

	男	女	合計
会社員	30	18	48
アルバイト	4	16	20
主婦	0	47	47
学生	10	25	35
自営業	7	6	13
無職	35	20	55
合計	86	132	218

利用者障がい種別・男女比

	男	女	合計
知的	9	7	16
発達	33	10	43
精神	4	3	7
視覚	2	9	11
肢体	14	33	47
難病	1	0	1
重症心身	3	1	4
重複	2	5	7
合計	68	68	136

月別支援件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
63	53	37	37	30	29	27	22	37	42	59	45	481
あむ以外						0	6	18	30	25	47	126
合計						27	28	55	72	84	92	607

支援内容内訳

支援内容	あむ	あむ以外	合計
外出支援	227	40	267
育児支援	31	0	31
家事援助	121	17	138
見守り・話し相手	46	27	73
庭仕事・除雪	7	4	11
活動支援	26	32	58
コミュニケーション支援	21	1	22
その他	2	5	7
合計	481	126	607

サポートセンター担当区別支援実績

サポートセンター	担当区	件数
あむ	中央区	430
	南区	38
	豊平区	6
	清田区	7
HOP	西区	67
	北区	14
	手稲区	0
わーかーびい	東区	36
	白石区	6
	厚別区	3

1対1の活動に不安や抵抗感があるサポーターに対しては、びーと、にこぱの日中活動にサポーターの参加受け入れも行っている。

地域の役に立ちたいという思いを持つサポーターの力を生かすことで、地域に住む障がいをもつ人、子の新たなニーズを発掘し、障がい者支援の知識や経験等を持たない人による支援、障がい福祉サービスの枠組みによらない支援の可能性を広げることができた。

課題としては中央区に比べ、他の区は地区間の距離が離れており、移動距離が長く、時間がかかるため、車で移動ができないサポーターの場合、活動できる範囲が地区内の徒歩圏に限られてしまう。

地区により利用者とサポーターの登録者数に偏りがあるため、市内全域から集まりやすい中央区に比べ、マッチングが難しく、利用者の依頼にすぐに応えにくいことあげられる。一人でも多くの利用者からの依頼に応えられるよう、地域サポーターを増やすため、引き続き事業のPR活動に努めていきたい。

・平成27年度地域サポーター研修会

3月7日 札幌市視覚障がい者情報センター 参加者21名

活動中の利用者、地域サポーターから話を伺った他、札幌市身体障がい者更生相談所理学療法士より車いす介助の方法を学んだ。

・PR活動

いきいき福祉健康フェア2015(10月16日～10月18日) 出展

広報さっぽろ全市版10月号、中央区版11月号記事掲載

読売新聞朝刊記事掲載 10月14日

さっぽろ村ラジオ「人の絆を作るために」出演 7月27日

STVラジオ「さっぽろ散歩」出演 11月7日

ラジオカロス「中央区だより」出演 2月8日

市・各区自立支援協議会 事業説明

区役所、まちづくりセンター等公共施設、地下鉄駅構内等ポスター掲示、チラシ配布

ぬくもり通信第1号 3月25日発行 500部

札幌市ホームページ、Yahoo! ボランティア 情報掲載

ワンマイルネット事業

1. ワンマイルネット事務局

ワンマイルネット事務局は事業の会計、賛助会員管理の他、イベント情報の発信や問い合わせに対する連絡窓口としての役割を担っている。

また幌西第12分区町内会班長業務や西屯田南8条商工会会員として、総会、行事への参加、中央区ボランティア連絡会理事として、中央区内のボランティア団体との交流、情報交換等を行った。

●ワンマイル事務局活動記録

4月16日	中央区ボランティア連絡会総会
5月9日	幌西第12分区町内会総会
5月31日	幌西第12分区町内会花植え
8月23日	幌西地区連合町内会 運動会
11月21日	西屯田8条商工会 観楓会
1月7日	西屯田8条商工会 新年会

2. まちづくり事業

《なんきゅう夏祭り》

日時 7月26日(日) 11時から16時

会場 わんぱく公園(中央区南9条西12丁目)

〈あむ〉周辺にお住いの方々にも協力頂き、実行委員会を発足し企画・運営を行った。ストリートパフォーマンス、腹話術などのイベント、屋台、縁日、バザーの出店の他、北海道文教大学、就労継続B型事業所エールアライブの参加もあった。関係者だけではなく、大人から子どもまで地域住民が多く参加し、交流を深めた。

《晩ごはん食べてけば?》

毎月第2木曜日 17時から20時まで、参加費 300円(小学生 100円)で、誰でも参加自由の夕食会「晩ごはん食べてけば?」を開催した。

	大人	小学生	未就学	合計	メニュー
4月	43	1	3	47	醤油を味わうごはん
5月	53	3	3	59	男の料理～パンに合うメニュー～
6月	51	8	8	67	夏祭りメニュー
7月	47	9	3	59	流しそうめん、おにぎり
8月	28	3	1	32	夏野菜カレー
9月	48	4	4	56	ハンバーグ、スパゲティなど
10月	33	2	0	35	中華料理とチョコバナナ
11月	48	5	7	60	韓国風料理
12月	39	3	3	45	そば打ち
1月	36	6	9	51	餅つき
2月	27	1	2	30	寄せ鍋、カレー鍋
3月	43	2	6	51	不思議なカレー

《まじっちゃんお》

地域の町内会、医療・教育・福祉関係者等など様々な人が集まって交流する「まじっちゃんお」を開催した。

日時 2月27日

会場 南9条通りサポートセンター2階他

参加者 70名

3.子育て支援事業

《ころころひろば》

毎週水曜日午前10時から11時30分まで、〈に・こ・ば〉を会場として、集団での活動が苦手な子でも安心して参加できるよう、少人数規模の子育てサロンとして活動している。中央区子育て支援課、地域の児童会館の協力を得て、チラシ配布などの活動のPRに努め、新たな参加者が徐々にではあるが増えてきている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	13	8	19	24	19	18	20	22	15	27	32	33	250

《リトミック教室》

親子で参加し、音楽に合わせたリズム遊び、楽器遊びなどを行うリトミック教室を年2コース(1コース6回)開催した。

前期コース 6～8月 参加者のべ43名

後期コース 9～12月 // 40名

会場 あけぼのアート&コミュニティセンター

講師 高橋幹子さん

《アフリカンダンス》

東京よりダンス講師 Mocoly さんを招き、6月、12月の2回、アフリカンドラムに合わせて、みんなでダンスを踊るイベントを行った。

第1回 日時 6月20日 会場 あけぼのアート&コミュニティセンター

第2回 日時 12月5日 会場 西野学園札幌医学技術福祉歯科専門学校体育館

4.障がい者支援事業

《お知り合い協会》

主に知的な障がいのある当事者が集まり、交流する「お知り合い協会」の活動を支援した。世話人(当事者)の方々が主体となるよう世話人会の運営を支えた他、交流会、イベントの開催、準備をサポートした。

日程	内容
5月31日	料理パーティー
9月27日	勉強会「コミュニケーションについて」
11月15日	お知り合い元気フェスタ2015
1月24日	新年会

5.夢の種を咲かす会

GAP 札幌ステラプレイス店に勤める松本氏よりいただいた10,000ドル(約100万円)の寄付を原資に、リンゴの木のオーナーになって、あむ利用者、スタッフ、GAPスタッフがみんなで収穫に行き、交流しようというイベント〈夢の種を咲かす会〉を開催した。

日時 10月3日

会場 仁木町 瀬尾観光農園

参加者 100名

スタッフ研修 SAT

1.研修について

基本的な知識の獲得は、各スタッフが自主的に行い、SAT では専門的な知識・技術の習得を図るため、以下のような研修を行った。

- 5月 事例検討〈こまち〉
- 9月 対人援助のスキルアップ講座 こころりんく東川 大友愛美さん
- 11月 虐待防止について ワンオール 林
- 12月 伝達講習（応急手当） びーと 上野・こまち 森
- 2月 実践交流会

アンケートを元に年間計画を立て、計画どおり全て実行することができた。

研修を行うための、事前準備（内容作り）には時間をかけ丁寧にすることができ、よりよい内容のものがあった。

実践交流会では、事業所ごとに発表する時間を作ったことにより、普段中々聞くことのできない、他事業所の実践や悩んでいることなどを聞くことができた。また、少人数のグループワークという形を取ったことでスタッフ1人1人が発言しやすくなるように配慮した。

終わった後のアンケートでは、「全体で実践を聞くことができて良かったが、意見交換の時間がもう少し長いほうが良いので、2回に分けてみてはどうか」という意見が多く出た。

2.研修情報の共有について

法人共有フォルダ内に「おすすめ研修」・「おすすめ本」というフォルダをつくったが、スタッフへの周知が足りず、あまり活用されなかった。毎度、SC新聞に載せるなどの周知の仕方を考える必要がある。

3.ディナーミーティングについて

今年度は行なわなかった。来年度は、経験交流や価値観の共有のために開催できるように、年間計画に組み入れたい。

広報 ami.com

あむが取組んでいる広報活動について「誰に向けた発信か?」「どんな人が見ているか?」「知りたい情報は何か?」などを、見直し整理を行った。またこれまでに寄せられた意見や要望を検討して具体的な内容として、以下の広報活動を行った。

1.わんまいる・みゅ〜じあむ

平成27年度は、これまでの「わんまいる・みゅ〜じあむ」への意見を整理した上で、作成に取り組んだ。具体的には、今までは分けて作成していたルビ版を通常版として採用、デザイン面の工夫を行い、スタッフからの原稿募集や写真の掲載量を増やしたりした。原稿依頼、編集方法・過程を見直す機会となり、今後の作業にも活かせる取組みができた。

2.ホーム・ページ・ブログ

ホームページについては、掲載内容の見直し、ブログとの連動性について協議を行い、具体的な進行については次年度の課題としていく。

3.掲示板

掲示板は、期間の過ぎた掲示物の撤去・貼り換えや、季節にあった飾りを〈びーと〉に作成依頼を行い、装飾するなどの工夫を施した。足を止めて見ている通行人も多く、今後も継続していきたい。また情報BOXについては次年度に設置を行う。

実習受け入れ

社会福祉士を目指す大学生、専門学校生の実習を受け入れた他、作業療法士を目指す大学生の地域作業療法学実習を受け入れた。

サブチーフを中心として実習受け入れ委員会を組織し、実習スケジュール、事業所間の連絡調整、実習生への指導、助言、養成校との連絡調整等を行った。実習受け入れ委員会マニュアルを作成し、実習受け入れ担当者の業務内容の整理と誰が担当しても対応できるような業務のマニュアル化を図った。

法人、事業についての理解を深めてもらうためのオリエンテーション、実習生が分からなかったこと、困ったことなどの疑問点、悩みを解消するためのフィードバック、スーパーバイズ等を通して、実習指導者自身が自分たちの仕事を振り返り、指導力、伝える力を身につける機会になっている。

実習受け入れ委員会

- 責任者：社会福祉士実習指導者（法人事務局：姉帯）
- 副責任者：各部署のサブチーフもしくはそれに代わる者
- 社会福祉士実習指導者：4名（平成27年3月現在）

実習受入実績

- 社会福祉士実習 23日間 北星学園大学 社会福祉学部 福祉計画学科3年：1名
- 社会福祉士実習 23日間 日本福祉大学 社会福祉学部 通信教育部：1名
- 社会福祉士実習 23日間 大原医療福祉専門学校：1名
- 相談援助入門実習 5日間 北星学園大学 社会福祉学部 福祉計画学科2年：1名
- 地域作業療法実習 5日間 北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科：2名
- 地域作業療法演習 2日間 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科3年：2名

計8名 81日間